

Basic Encounter Groupにおける 「自己認知」「グループ認知」の変化の研究

松 浦 光 和

要約（和文）

Basic Encounter Group経験の効果について調査した。対象は2012年から2015年にかけてM大学児童教育学科が実施した5グループである。今回は5グループを纏めて扱った。被験者（参加者）は、5グループで40名であった。ファシリテータ（促進者）は、筆者一人の場合と、他にもう一人加わる場合があった。全て3泊4日、9セッションで行った。

測定には、松浦・清水（1999）の「自己認知尺度」「グループ認知尺度」を使用した。これらの尺度の下位尺度であるが、前者の下位尺度は「安定感」「充実感」「自己理解」「他者との親密化」「主体性」、後者の下位尺度は「居心地の良さ」「グループ成長感」「親密感」である。

測定の結果、第1セッションを基準として、以降のセッションと比較すると第4セッションと第9セッションで全下位尺度の得点が著しく高くなる。今回の結果から、全行程の中間と最後に参加者の自己認知とグループ認知に大きな変化が生じたことが分かった。

1. はじめに

ベーシック・エンカウンター・グループ（Basic Encounter Group、以下でBEG）は、1940年代にカウンセリング（クライアント中心療法）創始者の中心的存在であったカール・ロジャーズ（C. R. Rogers）が、第二次世界大戦の戦線からアメリカに帰還する軍人・兵士へのカウンセリング・サービスを行った復員局の要請を受けて、短期間にカウンセラーを養成した際に、偶然に見いだした方法である。その後、増大する帰還兵や軍人等に対応するために多くのカウンセラー養成が必要になり積極的にBEGを活用した。

BEGは1960年代に日本に伝わり、現在は、カウンセラー養成や個人の成長、個人間のコミュニケーションおよび対人関係の発展などを目指して実施されている。通常は、大都市から離れた静かな場所で、12名前後の参加者と1～2名のファシリテータ（グループ促進者）でゆっくりと進めてゆく。期間は3泊4日が理想とされるが、勤労者・学生などには時間的にも費用的にも困難なので、1泊の場合も見受けられる。

M大学では、児童教育学科が発足した2007年度から、このBEGを始めた。この学科では幼稚園・小学校の教員を養成しているが、これらの教員にはカウンセリング・マインドが必要とされるので、この涵養をめざしてBEGを実施した。2010年度までは正式の科目ではなく無単位であったが、毎回10名前後の参加者が見られたので、2011年度から集中講義形式で行う2単位の科目「エンカウンター・グループ」になった。2009年頃から春期休暇・夏期休暇のいずれかで1回、あるいは両休暇で実施した。実施は1回のみ大学内で実施したが、他は全て近郊にある温泉地のホテルで行った。現在、授業としては夏期休暇中に行っているが履修登録して参加する学生は毎回1名～2名と極めて少なく、殆どは単位習得を目指さない。この点は研修型BEGとは異なる。

松浦らは、これまで一般の社会人が参加したBEGから以下の知見を得てきた。

(1) グループ認知について、「グループ認知尺度」(松浦・清水, 1999)を用いてセッション間比較をした結果、第8セッション・第9セッションでグループに対する肯定感が有意レベルで高まる(松浦・清水, 2000)。

(2) 参加者がグループについて記した所感を分類して、「被受容体験」(グループに受け入れられている感じ)、「不充実感」、「疲労感」、「グループに対する満足感」、「グループに対する信頼感」を見いだした(松浦・坂原, 2012)。

(3) 参加者がファシリテータについて記した所感を分類して、「信頼出来る」、「正直」、「安心できる」、「安定している」、「精神的に近い」と感じていることを確認した(松浦・清水, 2013)。

2. 目的

M大学のBEG効果研究で、BEG経験が、参加メンバーの「他者内面の理解」や「他者受容」の上昇に寄与することが確認されている(松浦, 2012)。

そこで、今回はM大学で2012年から2015年にかけて実施された5つのBEGを対象として、参加学生の「自己認知」・「グループ認知」について検討する。

3. 方法

(1) 実施方法

参加メンバー・実施時期・実施場所をTable 1に示した。ファシリテータは、筆者と清水幹夫氏⁽¹⁾(2012年・2013年・2014年・2015年8月)、および筆者と小柴孝子氏⁽²⁾(2015年2月)である。なお、Table1の講師アシスタントは、H大学大学院の臨床心理学専攻の大学院生であり、ファシリテータを補助するために参加した。

スケジュール表をTable 2に示した。各セッション（以下でSEとする場合がある）は概ね3時間であった。実際には変更が伴うこともあったが、一応の目安とした。

Table 1 各BEGの実施時期・参加者数・実施場所など

グループ実施年	実施期間	参加学生	ファシリテータ(講師)	講師アシスタント	場所
2012	2月13日～16日	8	2		郊外のホテル
2013	8月20日～23日	11	2	1	郊外のホテル
2014	8月18日～21日	5	2	2	郊外のホテル
2015	2月25日～28日	9	2		郊外のホテル
2015	8月17日～20日	7	2		郊外のホテル
合計		40		3	

Table 2 スケジュール表

	～9時	9時～12時	12時～14時	14時～17時	17時～19時	19時～22時
1日目			受付・オリエンテーション	第1セッション	夕食・入浴など	第2セッション
2日目	起床・朝食など	第3セッション	昼食など	第4セッション	夕食・入浴など	第5セッション
3日目	起床・朝食など	第6セッション	昼食など	第7セッション	夕食・入浴など	第8セッション
4日目	起床・朝食など	第9セッション	昼食・ふり取り・解散			

(2) 調査表の配布

各セッション終了時に参加メンバー（以下、メンバー）に対して、「自己認知尺度」・「グループ認知尺度」（松浦・清水、1999）を配付して、自身とグループに対する印象についての回答を依頼した。回答は任意とした。二つの認知尺度の下位尺度名、項目数をTable 3に示した。いずれも7件法のSD法尺度である。

Table 3 「自己認知尺度」「グループ認知尺度」の下位尺度および項目数

尺度名	下位尺度									
	名称	項目数	名称	項目数	名称	項目数	名称	項目数	名称	項目数
自己認知尺度	安定感	7	充実感	4	自己理解	4	他者に対する親密感	4	主体性	5
グループ認知尺度	居心地の良さ	11	グループ成長感	7	親しみやすさ	7				

(3) 回答の処理方法

回答を項目毎に得点化して、これを下位尺度毎に合計して、Table 3に示した項目数で除して平均得点を算出し「下位尺度得点」とした。

4. 結果

BEGでの自己とグループについての印象を「自己認知尺度」と「グループ認知尺度」で調査した。5つのグループは、それぞれ少人数のグループなので纏めて処理した。

「自己認知尺度」・「グループ認知尺度」の下位尺度の平均得点・標準偏差をTable 4・Table 5に示した。

Table 4 「自己認知尺度」の下位尺度の平均得点と標準偏差

尺度	下位尺度	セッション⇒	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		度数 ⇒	40	40	40	40	40	40	35	28	39
自己認知	安定感	平均	4.74	5.19	5.24	5.35	5.21	5.18	4.87	5.10	5.56
		標準偏差	1.23	1.21	1.36	1.22	1.38	1.39	1.47	1.80	1.46
	充実感	平均	4.85	5.07	5.12	5.39	5.42	5.23	5.32	5.21	5.56
		標準偏差	.98	1.02	1.28	1.14	1.07	1.25	1.25	1.34	1.05
	自己理解	平均	4.34	4.40	4.53	4.96	4.84	4.94	4.83	4.73	5.25
		標準偏差	1.18	1.29	1.53	1.43	1.48	1.35	1.53	1.78	1.35
	他者親密化	平均	5.11	5.33	5.28	5.59	5.42	5.43	5.16	5.32	5.67
		標準偏差	1.00	1.15	1.28	1.18	1.12	1.32	1.28	1.49	1.36
	主体性	平均	4.08	4.34	4.35	4.87	5.20	4.77	4.58	4.82	5.22
		標準偏差	1.04	1.13	1.21	1.11	2.25	1.24	1.25	1.33	1.29

Table 5 「グループ認知尺度」の下位尺度の平均得点と標準偏差

尺度	下位尺度	セッション⇒	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		度数 ⇒	40	40	40	40	40	40	35	28	39
グループ認知	居心地の良さ	平均	5.37	5.62	5.62	5.88	5.61	5.66	5.52	5.52	5.87
		標準偏差	.98	.95	1.10	1.09	1.12	1.18	1.26	1.35	1.21
	グループ成長	平均	4.64	4.96	5.15	5.34	5.19	5.30	5.26	5.23	5.48
		標準偏差	1.04	.98	1.05	1.12	1.16	1.20	1.23	1.15	1.16
	親密感	平均	5.28	5.61	5.52	5.77	5.53	5.58	5.34	5.40	5.79
		標準偏差	1.19	1.03	1.31	1.26	1.28	1.32	1.27	1.45	1.14

1) 「自己認知尺度」で捉えた変化

Table 4に基づいて「自己認知尺度」の各下位尺度点をFig.1-1～Fig. 1-2に示した。

(1) 9セッション間の比較

各下位尺度について、9セッション間で分散分析を行い、その結果をTable 6に纏めた。

「充実感」で、5%以下の有意差が見られたが、ペアごとの比較では、どのペアにも5%以下の有意差はなかった。「主体性」で、5%以下の有意差が見られた。ペアごとの比較で、第1SEと第4SEの間に有意差が見られた。

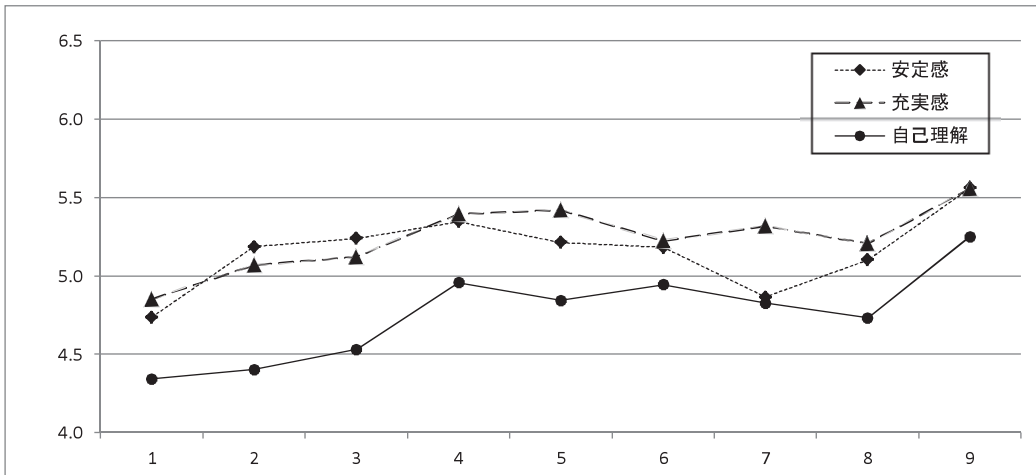


Fig.1-1 自己認知の推移1 (安定感・充実感・自己理解)

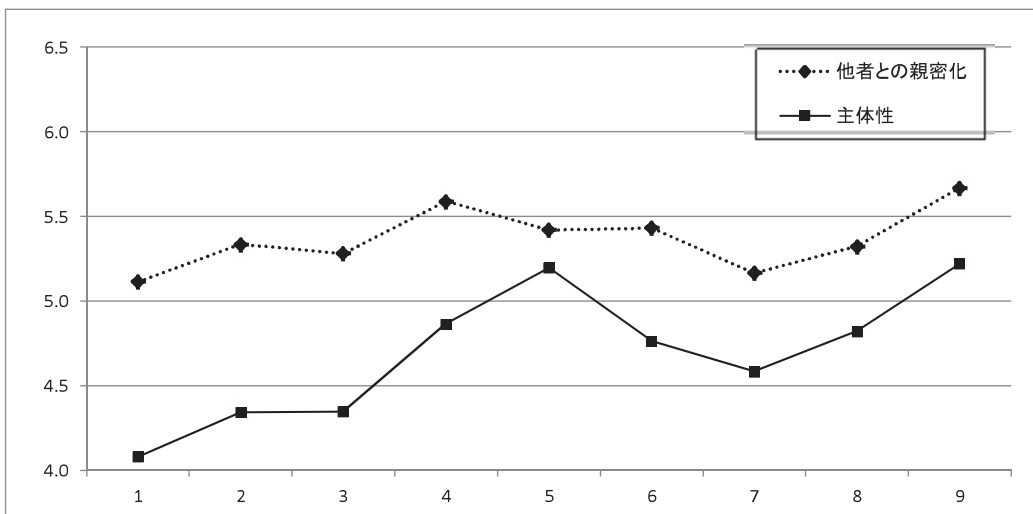


Fig.1-2 自己認知の推移2 (他者との親密化・主体性)

Table 6 9セッション間の比較 (自己認知尺度)

下位尺度	F値	有意確率	多重比較(P<.05)
安定感	1.50		
充実感	2.23	*	
自己理解	1.61		
他者との親密化	.58		
主体性	3.05	*	第1SE<第4SE

* p<.05

（２）各SEの動向

自己認知のSEごとの動向を把握するために、基準値を設定して各SEと比較する。この様な比較の場合、グループ開始前の測定値を基準値とすることが適当であろうが、BEGでは、グループ開始前の測定は不可能である。そこで、今回は第1SEを基準として、後続SEとの間で比較した。その結果をTable 7に示した。

Table 7およびFig. 1-1、Fig. 1-2から、「安定感」「充実感」「自己理解」「他者との親密化」「主体性」は第1SEの得点が最も低いがSEの進行に伴って上昇する。個別に見てゆくと「安定感」では、第1SEよりも第2SE・第3SE・第4SE・第4SEが5%以下のレベルで高かった。「充実感」では、第1SEよりも第4SE・第5SE・第7SE・第8SE・第9SEが5%以下のレベルで高かった。「自己理解」では、第1SEよりも第4SE・第5SE・第6SE・第9SEが5%以下のレベルで高かった。「他者との親密化」では、第1SEよりも第4SE・第9SEが5%以下のレベルで高かった。「主体性」では、第1SEよりも第4SE・第5SE・第6SE・第7SE・第8SE・第9SEが5%以下のレベルで高かった。

これらから、「自己認知尺度」の全下位尺度で、第1SEと第4SEの間および第1SEと第9SEの間で、有意なレベルでの変化が見られた。

Table 7 第1セッションと後続セッションの比較（自己認知尺度）

下位尺度		第1SE-第2SE	第1SE-第3SE	第1SE-第4SE	第1SE-第5SE	第1SE-第6SE	第1SE-第7SE	第1SE-第8SE	第1SE-第9SE
安定感	df	38	38	38	38	38	33	26	37
	t	2.59	2.64	2.75	1.85	1.72	.30	1.20	2.60
	水準	*	*	**					*
	高低比較	1<2	1<3	1<4					1<9
充実感	df	38	38	38	38	38	32	26	37
	t	1.06	1.66	3.26	2.58	1.79	2.95	2.32	3.59
	水準			**	*		**	*	***
	高低比較			1<4	1<5		1<7	1<8	1<9
自己理解	df	38	38	38	38	38	33	26	37
	t	.28	.93	2.90	2.09	2.77	1.63	1.31	3.70
	水準			**	*	**			***
	高低比較			1<4	1<5	1<6			1<9
他者との親密化	df	38	38	38	38	38	33	26	37
	t	.98	1.03	2.43	1.58	1.23	.03	.97	2.10
	水準			*					*
	高低比較			1<4					1<9
主体性	df	38	38	38	38	38	33	26	37
	t	1.27	1.46	3.73	2.74	2.99	2.04	2.91	4.23
	水準			***	**	**	*	**	***
	高低比較			1<4	1<5	1<6	1<7	1<8	1<9

* p<.05 ** P<.01 *** P<.001

2) 「グループ認知尺度」で捉えた変化

Table 5に基づいて「グループ認知尺度」の各下位尺度点をFig. 2に示した。

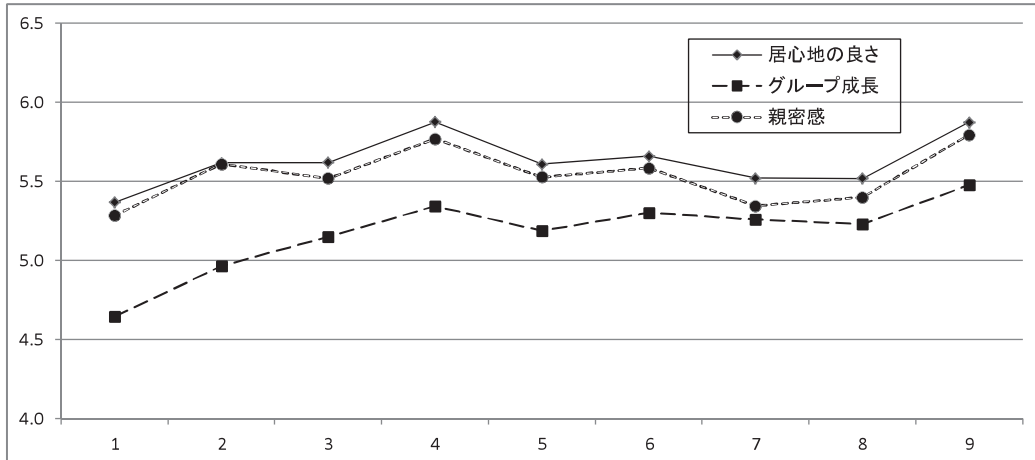


Fig.2 グループ認知の推移

(1) 9セッション間の比較

各下位尺度について、9セッション間で分散分析を行い、その結果をTable 8に纏めた。

「グループの成長」で0.1%以下の有意差があった。ペアごとの比較で、第1SEと第4SE・第8SE間で有意差があり、第4SE・第8SEが高い。

Table8 9セッション間の比較（グループ認知尺度）

下位尺度	F値	有意確率	多重比較(P<.05)
居心地の良さ	1.51		
グループの成長	3.40	***	第1SE<第4・8SE
親密感	1.42		

*** p<.001

(2) 各SEの動向

グループ認知のSEごとの動向を把握するために、基準値を設定して各SEと比較する。このような比較の場合、グループ開始前の測定値を基準値とすることが適当であろうが、「自己認知尺度」と同様にBEG開始前にグループ認知を測定することは不可能である。そこで、今回は第1SEを基準として、後続SEとの間で比較した。その結果をTable 9に示した。

Table 5およびFig. 2から、「居心地の良さ」「グループ成長感」「親密感」は第1SEの得点が最も低く、SEの進行に伴って、途中で一旦下降するが、上昇的な傾向が見られる。また、「居心地の良さ」では、第1SEよりも第2SE・第3SE・第4SE・第9SEが有意なレベルで高い。「グループ成長感」では、第1SEよりも、以降の全SEが有意なレベルで高い。「親密感」では、第1SEよりも第2SE・第4SE・第9SEが有意なレベルで高い。

これらから、「グループ認知尺度」の全下位尺度で、第1SEと第4SEの間および第1SEと第9SEの間で、有意なレベルでの変化が見られた。

Table 9 先行セッションと後続セッションの比較（グループ認知尺度）

下位尺度		第1SE-第2SE	第1SE-第3SE	第1SE-第4SE	第1SE-第5SE	第1SE-第6SE	第1SE-第7SE	第1SE-第8SE	第1SE-第9SE
居心地の 良さ	df	38	38	38	38	38	33	26	37
	t	1.96	2.84	4.05	1.31	1.81	.88	1.46	2.84
	水準		**	***					**
	高低比較		1<3	1<4					1<9
グループ の成長	df	38	38	38	38	38	33	26	37
	t	1.52	3.76	4.52	2.62	3.07	3.91	4.14	4.19
	水準		***	***	*	**	***	***	***
	高低比較		1<3	1<4	1<5	1<6	1<7	1<8	1<9
親密感	df	38	38	38	38	38	33	26	37
	t	2.08	1.51	2.49	.84	1.27	.33	1.05	2.08
	水準	*		*					*
	高低比較	1<2		1<4					1<9

* p<.05 ** P<.01 *** P<.001

5. 考 察

今回使用した「自己認知尺度」、「グループ認知尺度」で、9セッション間の比較で有意差が生じた下位尺度は極めて少なかった。セッション間での変化が小さく、安定していたことが示唆された。対象となったグループは同じ大学・同じ学科の学生からなる同質的な集団であるが、これが一因とも考えられる。この点については、多様なメンバーからなるグループのBEGと比較するなどして今後検討したい。

BEG開始後の第1SEの尺度得点を基準点として、後続する各SEと比較した結果、第3SEまでは大きな変化が見られないが、第4SEで有意レベルで上昇し、第4SEから第8SEまでは第1SE程度に戻り、最後の第9SEで再び上昇に転じたことが分かった。第4SEと第9SE間に有意差はなかった（Table 10）ので、今回の調査では、同程度の大きな変化が、中間（第4SE）と最後（第9SE）に2度生じたことを示している。

これら2点を纏めると、今回対象となった同質的な集団のBEGにおいては、始まりから終わ

りまで自己認知・グループ認知は変化が少なく安定しているが、中間と最後で大きな変化が起きたことが分かった。

Table 10 第4セッションと第9セッションの比較

下位尺度	df	t	水準
安定感	38	.80	
充実感	38	1.03	
自己理解	38	1.66	
他者親密化	38	.35	
主体性	38	1.58	
居心地の良さ	38	.27	
グループ成長	38	.83	
親密感	38	.02	

注

- (1) 法政大学教授（現同大学名誉教授）
 (2) 宮城学院女子大学准教授

引用文献

- 松浦光和 2005 エンカウンター・グループにおける心理的成長と個人過程の研究 琉球大学法文学部人間科学科紀要「人間科学」, 16, 21-45.
 松浦光和・坂原明 2012 Basic Encounter Group参加者の所感の分類 宮城学院女子大学研究論文集第114号, 9-24.
 松浦光和・清水幹夫 1999 Basic Encounter Groupの個人プロセス調査用尺度の作成 カウンセリング研究, 32, 182-193.
 松浦光和・清水幹夫 2000 ベーシック・エンカウンター・グループ参加メンバーのグループ認知に関する実証的研究 千葉大学教育実践研究, 7, 185-195.
 松浦光和・清水幹夫 2013 Basic Encounter Group参加者の所感の分類（Ⅱ） 宮城学院女子大学研究論文集第116号, 727-38.

A Study on Changes in "Self-Perception" and "Group-Perception" in Basic Encounter Group

Mitsukazu MATSUURA

Summary

This is a research in the effect of experiences in Basic Encounter Group. The objects were composed five groups of students from the Department of Elementary Education of M University between 2012 and 2015. Five groups were processed as a whole. The number of research participants from the five groups was forty. There was one facilitator, i.e. the author himself, and another occasionally. In all occasions, nine sessions took place over three nights and four days. "Self-Perception scale" and "Group-Perception scale" (Matsuura, Shimizu, 1999) were used for the measurement. As for the subscales of these scales, the subscales of the first set of scales were "a sense of stability," "fulfillment," "self-understanding," "closeness to others ," and "initiative"; the subscales of the second set of scales were "comfortableness," "growth of the group," and "intimate feeling."

According to the measurement, in comparison to the first session, the scores of all subscales in the fourth session and the ninth session were considerably high. From this result, we concluded that a great change took place in the participants' self-perception as well as group-perception in the middle and the final stage of the entire process.